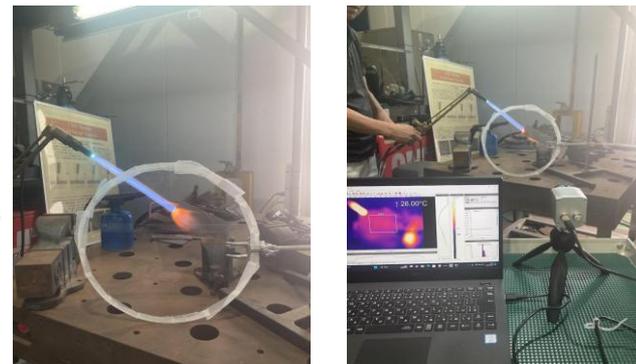


赤外線USBカメラの実例：ガラス越しとガラスなしでのバーナー点火撮影

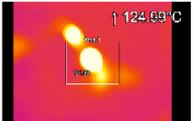
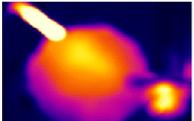
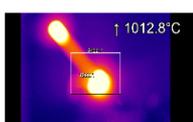
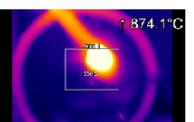
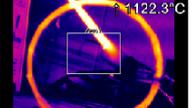
赤外線カメラの温度別分析

試験の手順

赤外線カメラ（低温、中高温、高温）を用いて、
ガラス越しとガラスなしの条件でバーナーの点火を撮影する。



試験結果

サーモカメラ シリーズ名	測定波長域 (μm)	測定温度 ($^{\circ}\text{C}$)	ガラスなし	ガラス越し	機器に関する 詳細
 PI640i 低中温測定用	7.5 ~ 13 (遠赤外線)	-20 $^{\circ}\text{C}$ ~900			
 PI1M 中高温測定用 レーザー用	0.85~1.1 (近赤外線)	450 $^{\circ}\text{C}$ ~1800			
 PI05M 高温測定用	0.50~0.54 (近赤外線)	900 $^{\circ}\text{C}$ ~2450			

・赤外線カメラがガラス越しの撮影で
高温や中高温の物体は捉えられるが、
低中温の物体は捉えられない。

まとめ

・PI640i: 遠赤外線検出器を使用。ガラスはこの波長域で透過しないため、ガラス自体の温度を測定。ガラス越しでの測定は不可。

・PI1M・PI05M: 可視光および近赤外線を使用。透明なガラスであれば透過し、撮影が可能。